

2016年1月1日～2020年12月31日の間に
日本国内において外傷の治療を受けられた方へ
—「外傷患者におけるアルコールが及ぼす影響の検討」へご協力のお
願い—

研究機関名 岡山大学病院
研究機関長 病院長 前田 嘉信

研究責任者 岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座 助教 野島 剛
研究分担者 岡山大学学術研究院医歯薬学域 救命救急・災害医学講座 教授 中尾 篤典
岡山大学学術研究院医歯薬学域 救命救急・災害医学講座 准教授 内藤 宏道

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

飲酒後の外傷は救急外来で診療する頻度が高い病態です。日本では、一時的な大量飲酒後には外傷を受傷するリスクが25.6倍になるという報告があります。また、飲酒により意識レベルが低下することで疼痛部位を訴えられなくなり、診療するときには外傷部位を確認することが困難になることもあります。頭部外傷では最大で57%がアルコール飲酒者であったという報告もあり、飲酒者の外傷診療が困難になる原因にもなります。

飲酒後外傷の予後は様々な報告があります。飲酒後の外傷は予後が良いとする報告や、飲酒後でもアルコール血中濃度が低ければ生命予後は良く、アルコール血中濃度が高ければ生命予後は悪いとする報告もあり、はっきりわからない状態です。また、日本における飲酒と外傷に関する予後もはっきりしません。

今回大規模なデータを使用して、日本での飲酒と外傷の生命予後に関して検討を行います。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

飲酒後の外傷に対する生命に対するリスクを示すことで医学上の貢献としては外傷診療全体の質が改善する可能性があります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

以下の基準を全て満たす症例を選択する

- ① 2016年1月1日から2020年12月31日の間に日本外傷データバンクに参加する施設に救急搬送された外傷患者で、外傷データバンクに登録された患者
- ② 救急外来受診時に飲酒の有無が判明している患者
- ③ 年齢が20歳以上の成人
- ④ 性別：男女
- ⑤ 入院・外来は問わない

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2024年12月31日

3) 研究方法

2016年1月1日～2020年12月31日の間に全国の日本外傷データベースに登録された患者様の内、年齢が20歳以上の成人、飲酒の有無が確認された全症例の予後を確認し、飲酒が外傷に対する危険性を確認します。また、頭部外傷単独の症例や体幹部（胸部・腹部）外傷症例でも同様に検討を行います。

4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、日本外傷データベースに登録されているデータから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの氏名、生年月日などの情報は既に削除、匿名化されています。

- 1) 年齢, 性別
- 2) 病院到着時の意識レベル (Glasgow Coma Scale: GCS), 血圧, 脈拍数
呼吸回数、これらの数値より RTS : Revised Trauma Score を算出する。
- 3) 鈍的外傷もしくは鋭的外傷
- 4) 外傷の重症度を表すスコア (Injury Severity Score: ISS), 外傷全体の解剖学的重症度を表すスコア (Probability of survival: Ps)
- 5) 生存・死亡の転帰 (退院時)

5) 試料・情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院救急医学医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。二次利用はおこなわない。

6) 研究計画書および個人情報の開示

この研究は学会や論文で発表しますので、ご了解ください。あなたの氏名、生年月日などの情報は既に削除、匿名化されています。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座

氏名：野島 剛

電話：086-235-7427（平日：8時30分～17時00分）

ファックス：086-235-7427